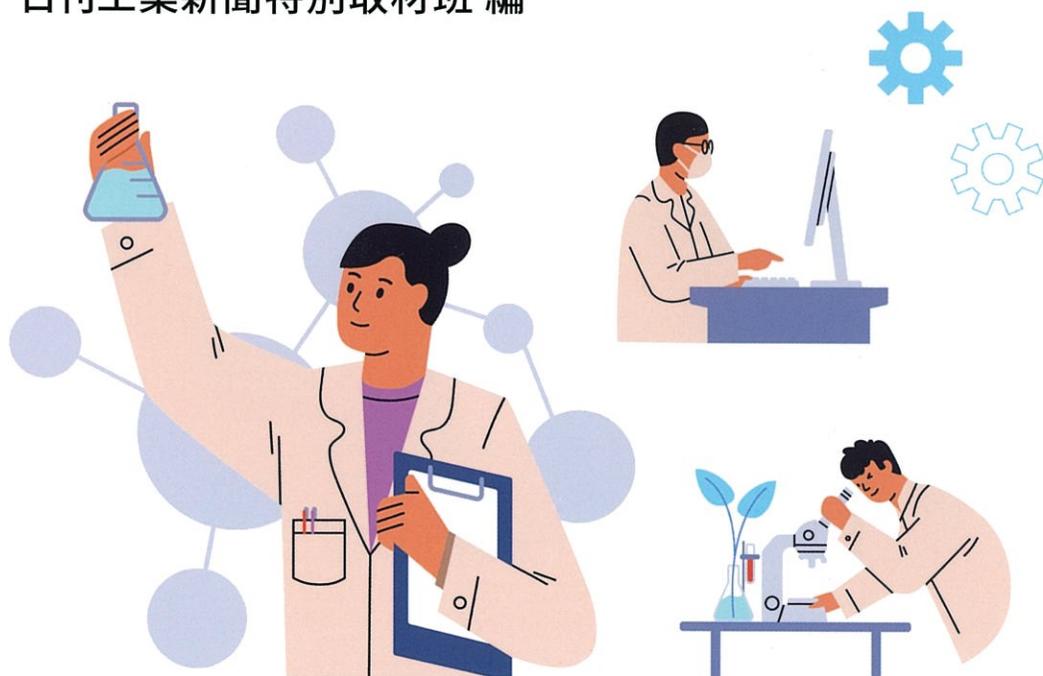


2023年版

日刊工業
新聞社が
推薦する

ココに入社したい! 理系学生 注目の優良企業

日刊工業新聞特別取材班 編



日刊工業新聞社

株式会社日さく

創業110周年、さく井工事のパイオニア

—生活に欠かせない“水”の技術者集団

記者の目

ここに
注目

- ▶ AI活用も推進、業務効率化へ
- ▶ 社員幸福度を重視、メンター制度も導入

日さくは井戸を掘るさく井工事を手がけ、2021年4月に創業110年を迎えた老舗として知られる。さく井工事のみならず特殊土木工事や地質調査、井戸用設備製造まで手がける数少ない企業だ。アフリカ、中東・アジア・中南米といった海外にも進出。衛生的な水が得られず生活に苦しむ人々のために地下水による給水施設を建設し、飲料水を供給するなど、自社の事業を通じて国連の持続可能な開発目標（SDGs）にも取り組んでいる。

蛇口をひねれば当たり前に出ると思われている水。同社が本社を置くさいたま市の水道水源のうち、9割は河川などから取水し、1割は井戸水を使っている。日さくはその井戸を掘り、人々に命の水を届けている。

職人の経験とノウハウこそが宝

井戸を掘ると一口に言っても、通常の建設現場で行われる地盤の掘削とは大きく異なる。さく井工事は掘削して終わりではなく、きれいな水を20～30年以上の長い間出し続ける必要がある。長く使える井戸を掘るには「技術者の経験とノウハウが不可欠」と若林直樹社長は力を込める。長年培った経験



代表取締役
若林 直樹さん

に新技術を組み合わせ、さらに地質の状態も加味し掘削する技術は、まさに同社の宝とも言える。

特に海外事業におけるさく井工事は社会貢献に大きく寄与している。発展途上国では井戸を持たない地域が多数存在する。安全な水を使える場所は少ないため、そこに住む人々は不衛生で汚れた水を利用しなければならない。生きるため水を川でくむ仕事は、その多くを女性や子どもが担当する。同社はこうした地域に井戸を掘り、川に水をくみに行く労働から人々を解放する政府開発援助（ODA）案件を多く手がける。井戸を掘ると村中が歓喜に沸きお祭り騒ぎに。若林社長は「地域の人に喜ばれていることに感動し、自分の仕事が世の中や社会に役立っていることを実感する瞬間だ」と強調する。

近年はデジタル化にも力を入れる。同社の事業は新たな井戸を掘るだけでなく、メンテナンス業も同等に重要だ。そこで人工知能（AI）の活用を実証ベースで進めている。

井戸内の状況を水中テレビカメラで撮影し、現在技術者が目視で判断している「正常」「破損」「閉塞」を自動で分類。静止画にして抽出し、効率的なメンテナンスを実現しようとしている。技術者の作業の省力化が図られるので業務効率化につながる。少子高齢化で人口減少も進む中「ハードな現場作業を機械で代替する」と若林社長。働き方改革にも役立てる構えだ。

人間性を重視、挑戦しやすい環境

デジタル化を積極展開することは、採用活動にも貢献する。昔ながらの職人技術に憧れて入社する社員も多いが、デジタル化を進めることで、新技術に関心がある若手を取り込む狙いもある。「地盤や地下水に対する想いは強く、さく井工事のみならず特殊土木工事や地質調査の人材確保にも注力している」と若林社長はアピールする。



動力源を必要とすることなく飲料水・生活用水が確保される自社施工の防災用井戸



若林社長を囲んだ社員集合写真



ザンビアのハンドポンプ水汲み場

同社は技術者集団で、理系人材の活躍への期待は大きい。一方で若林社長は「専門知識が備わってなくても構わない。重視しているのは人間性。人間性があって初めて技術が活きる」とも説明する。入社後に懸命に学習してスキルアップする意欲があれば、挑戦、活躍する舞台は用意されていて、理系が専門でない若手社員が現場などで生き生きとして働き、活躍している。

働く人を大切にすることは、『社員幸福度』を高

める取り組みも加速している。メンター制度を導入し、新入社員を対象に、先輩社員をメンターとして相談役に設定。仕事のアドバイスや悩みの相談に乗る仕組みだ。なれ合いを避けるため一定期間後はメンターの交換も実施。こうした取り組みにより、メンター制度導入前よりも離職率が低下した。「『ヒト・モノ・カネ』ではなく『ヒト・ヒト・ヒト』が大切だ」との言葉通り、その人財を武器に、今後も成長し続ける同社に注目したい。

理系出身の若手社員に聞く

チームで団結、さく井工事。海外での活躍が夢

東日本支社さく井部さく井二課
キム・ドンヒョンさん（2020年入社）

私は入社2年目で、井戸の掘削やメンテナンス作業を行っています。直近では先輩社員と工事管理も行いました。多くの作業者とコミュニケーションを取り、技術面での対応のみならず工期の流れを考えたり、機材を運ぶタイミングを決めたり、現場を俯瞰する必要があります。難しい業務ですがチームで団結して完成した時の達成感がこの仕事の魅力です。

韓国の大学を卒業後、秋田県の大学院で地中熱を専門に勉強し、その中で専門性を活かせる当社を知って志望しました。将来はODA事業に携わり、海外で水を必要としている人の役に立ちたいと考えています。



会社DATA

所在地：さいたま市大宮区桜木町4-199-3
 創業：1912年4月25日
 代表者：代表取締役 若林 直樹
 資本金：1億円
 従業員数：281名
 事業内容：さく井工事、井戸メンテナンス、地下水関連設備工事、特殊土木工事、地質調査・建設コンサルタント、海外事業、井戸用設備製造・販売
 URL：https://www.nissaku.co.jp/

